婦人と子ども

女の嗜

花や、茶の湯や、琴三絃や、料理に裁縫などは女の嗜として、親達は十分娘に仕込むことを怠りませぬ。若し個樣な嗜がないとあつては、お嫁に行く時分に娘の面目に係はる。併しながら、其親達は、之よりもそつと大切な女の嗜の一つを見落して居り、且つお嫁を貰ふ方に取つても、夫を不問に置いて居るではありませんか、何でせうか、曰く育兒の心を得させて置くことであります。

凡そ女の嗜といふ特殊のものがありとしますれば、育兒の心を得て置くほど女に取りて大切な嗜はありますまい、花だの茶の湯だの琴や三味は、たゞ其當座習つて居る丈げの裝飾に過ぎません、お嫁に行

つてからが、實際そんな悠長なことに日を暮らして居る譯にも參りません、若し參りますとすれば、其時に習つても敢て差支はありますまい、裁縫は勿論必要な嗜でせう、然しこれとても缺くべからざるものでもない、料理も心得て置くに越した事はない、然し家を持つてからでも特別のものは稽古が出來ます。己むを得ずんば裁縫も料理も他人にさせて差支はありません、併し自分の子を育てるといふことになると、決して、其時になつて習ふといふのでは追付かぬ、よほど特別の事情がなくては人に托する事は出來ない。

普通所謂女の嗜といふものは、決して人間の生命や將來の運命に關するほど大切なものでないが、育兒と來ては人の生命に關する、即ち罷り間違へば子供の生命をなくするか、又は馬鹿にして仕舞ふ、こう見ると、各自の母親がこの事を心得て置くと置かぬとは、直ちに自分や子供に直接の影響を來す許りでなく、抑々亦實に國家の利害盛衰に關係して來ることであります、所謂搖籃を動かす母の手は又世界を動かすといふではありませんか。

戰後國民の覺悟、就中日本女子の覺悟とは何でありませう、これは決して生花や、琴や三味や茶の湯や舞蹈などに上達するに在るのではありません、實に、將來健全有爲な國民を作るに在ります、之に付けては、各自この有爲な國民を育て上げる育兒の法を十分に心得て置くことが、第一番に大切なことゝなるではありますまいか、併も此點に付きて、社會の親達殊に母親がたが、十分認識せられて居らんのは

實に殘念でありませんか、否な〳〵所謂良妻賢母の養成を標榜して居る女學校に於てすら、怪しむべき程、この方の教授方が冷淡である、縱令、冷淡でないとしても當を得て居りませぬ、下宿屋住まひの女の先生が家政を教へると同じ樣に、子供の經驗もない若い獨身の先生が育兒を講義して居られるのであります、よし女學校で學んだといつても到底眞の心得が得られるものでないのであります。

私共は此點に付きて、大に世の母親さん方や、女學校の先生方に向つて注意を願ひたいのであります。